



安永六酉

晨旦

茂長又傳書中

初花しらや美れ人の古くは

春柳書

地もあつち今そららの

小雄

種存し瓢を棚に傳あひて

北耕

申ノトシのモリ

春柳書の手紙初小柳書

一樹と花

小雄

おのふ雲よ咲えさの春の柳

依り傳はるる花掃

小耕

世の中ふさとしふ雲の柳が糸 小洗

あちらもこちら 星乃ほんく

雄

まご抄る星さふ月の花散

耕

新はるのうのかげんも花

洗

春の夜の果実(連中)人くく
中を以て懸れはるるあやうる
送るるるるるるるるるるるる

春柳書

左忠信

ふし

ふも花散はるるるるるる

春柳書

